

## —スタッフ—

役 職	スタッフ名
周産期センター新生児医療センター長 兼小児科部長	住田 裕
医 長	山本 昌周
医 長	豊 奈々絵
非常勤医員	竹中 朋代

## —概要—

周産期センターの概要で述べた通り、今年度の小児科人員は、常勤が諸般の事情により1名減の3名、後期研修医1名、計4名となった。1年間限定ではあるが、さすがに、これまでの小児科・救急および周産期医療をこの人数でこなすことは不可能となり、業務を可能な限り縮小せざるを得なくなった。特に、夜間・休日小児救急輪番の担当回数を減らすこと、泉州北部小児初期救急広域センターへの出務回数を減らすこととなり、多大な迷惑をかけることとなってしまった。また、月2回担当していた小児神経外来非常勤嘱託医の退職に伴い、小児神経外来も閉鎖を余儀なくされた。

外来診療は、一般外来（月曜のみ2診制、火～金は1診制）、慢性外来、1ヶ月健診、生後2週健診、専門外来として循環器外来（第2金曜、完全予約制）を行っている。予防接種は、RS ウイルスワクチン、他院での接種困難児を対象にインフルエンザワクチンの接種を行なっている。

泉州二次医療圏における小児救急医療体制に関しては、2006年11月3日にオープンした泉州北部小児初期救急広域センター（日曜、祝日、年末年始、の9:00～22:00、土曜の17:00～22:00）がその機能を維持している。入院が必要と思われる患児は、その診療時間帯に後送病院として、輪番制で行っている従来の泉州地区7病院（和泉市立病院、泉大津市立病院、市立岸和田市民病院、岸和田徳洲会病院、市立貝塚病院、りんくう総合医療センター、阪南市民病院）に紹介され、そこで最終的に入院の要否が決定される。また、消防隊からの救急車による搬送も当番の輪番病院に集められる。広域センターの終了後、23時以降は、その日の輪番病院で従来の夜間小児救急が行われている。当院の小児救急輪番担当日は、これまで偶数週の日曜日17:00～23:00が広域センターからの後送病院担当、同23:00～翌6:00が一次救急診療対応時間帯であったが、上述の通り縮小せざるを得なくなった。月2回、年間計24回の担当を、計6回に減らし、残りは他の6病院で分担

となった。

## —実績—

昨年度一年間に外来を受診した患者の延べ数（輪番救急外来受診患者を除く）は7,502人、月平均約625人で、昨年度より643人の減であった。輪番救急が例年の1/4に縮小したことによって、その受診児数は148人に減少し、1回平均約25人であった（表1）。入院児数は7人（4.7%）、受診児の重症度は相対的に低く、この傾向に変わりはない。

小児科一般病室の入院患者数は延べ172人、昨年に対して32人の減であった。輪番救急外来からの入院児が占める割合は、わずか4.1%にすぎなかった。表2に入院児の主診断を示す。例年通り、気管支喘息、肺炎、喘息様気管支炎、RS ウイルス感染症、ウイルス性腸炎など急性感染症が大部分を占めていたが、周産期センター開設以来、新生児黄疸の光線療法治療入院の割合が増加しており、この傾向は今年度も同様であった。

病診連携によって紹介された患者の入院数は15人、入院児全体の8.7%であった。

表1 救急外来受診児数

	2次救急 (17時～23時)	1次救急 (23時以降)	計
受診者数	37	109	146
入院者数	1	6	7
救急搬送	13	15	28
紹介者数	2	2	4

表2 入院児主診断名

感染症・寄生虫症	
サルモネラ腸炎	1
細菌性腸炎	1
ロタウイルス性腸炎	7
感染性胃腸炎	4
百日咳	1
猩紅熱	1
B群溶連菌敗血症	1
B群溶連菌感染症	1
細菌感染症、詳細不明	2
ウイルス性髄膜炎	1
ヘルパンギーナ	2
血液・造血器・免疫疾患	
血小板減少性紫斑病	1
周産期疾患・先天異常・保育	
新生児ABO不適合溶血性黄疸	1
母乳性黄疸	1
新生児黄疸	24
先天奇形・変形・染色体異常	
ヒルシュスブルング病	1
内分泌代謝疾患・栄養障害	
糖尿病	2
高浸透圧性非ケトン性昏睡	1
SGA性低身長症	2
プロピオン酸血症	1

神経系・感覚器疾患	
無菌性髄膜炎	2
無呼吸発作	1
熱性痙攣	5
無熱性痙攣	1
痙攣重積発作	1
消化器疾患	
急性胃粘膜病変	1
腸重積症	1
腸重積症再発	1
吞気症	1
胆汁性嘔吐	1
高ビリルビン血症	1
皮膚・皮下組織疾患	
ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群	1
蜂窩織炎	3
筋骨格系・結合組織疾患	
化膿性股関節炎	1
川崎病	6
ウイルス性筋炎	1
泌尿・生殖器疾患	
尿路感染症	5

呼吸器疾患	
細菌性咽頭炎	1
急性咽頭炎	5
アデノウイルス扁桃炎	1
急性咽頭扁桃炎	1
急性上気道炎	4
インフルエンザA型	1
ウイルス性肺炎	2
マイコプラズマ肺炎	13
ペニシリン感受性肺炎	1
細菌性肺炎	13
RSウイルス気管支炎	10
クループ性気管支炎	2
急性気管支炎	3
急性喉頭気管気管支炎	1
RSウイルス細気管支炎	4
急性細気管支炎	1
気管支喘息	13
喘息性気管支炎	4
気管支喘息重積発作	1
肺出血	1
損傷・中毒・アレルギー	
異物残留	1
紹介入院率 15/172=8.7%	